

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

### 令和2年度2月

#### ○ 概要

(1) 令和3年2月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,031億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲4.9%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,764円（伸び率+6.8%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,536億円（伸び率▲7.1%）薬剤料が4,483億円（伸び率▲4.1%）、薬剤料のうち、後発医薬品が965億円（伸び率+9.1%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,670円（伸び率+6.8%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.73種類（伸び率▲1.3%）、27.9日（伸び率+12.5%）、74円（伸び率▲3.8%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料3,502億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲182億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは21循環器官用薬の601億円（伸び幅▲37億円）で、伸び幅が最も高かったのは42腫瘍用薬の+29億円（総額369億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,502億円 (▲182億円)	21 循環器官用薬 (601億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (600億円)	11 中枢神経系用薬 (546億円)
0歳以上 5歳未満	17.8億円 (▲9.0億円)	44 アレルギー用薬 (7.6億円)	22 呼吸器官用薬 (2.4億円)	61 抗生物質製剤 (2.4億円)
5歳以上 15歳未満	82.0億円 (▲12.4億円)	44 アレルギー用薬 (39.5億円)	11 中枢神経系用薬 (20.3億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (4.7億円)
15歳以上 65歳未満	1,277億円 (▲52億円)	11 中枢神経系用薬 (259億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (228億円)	21 循環器官用薬 (183億円)
65歳以上 75歳未満	833億円 (▲22億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (175億円)	21 循環器官用薬 (167億円)	42 腫瘍用薬 (118億円)
75歳以上	1,292億円 (▲87億円)	21 循環器官用薬 (247億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (192億円)	11 中枢神経系用薬 (179億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,764円（伸び率+6.8%）で、最も高かったのは北海道（11,621円（伸び率+6.4%））、最も低かったのは佐賀県（8,201円（伸び率+6.4%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは徳島県（伸び率+9.4%）、最も低かったのは和歌山県（伸び率+2.9%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注）</sup>	82.1 %	+1.8 %
薬剤料ベース	21.5 %	+2.6 %
後発品調剤率	77.8 %	+1.7 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.2 %	+3.7 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+9.1 %	+27.2 % (100歳以上)	▲16.0 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	21.5 %	30.8 % (100歳以上)	14.9 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	82.1 %	86.8 % (100歳以上)	76.3 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	829 億円 (+69 億円)	21 循環器官用薬 (238 億円)	11 中枢神経系用薬 (131 億円)	44 アレルギー用薬 (103 億円)
0歳以上 5歳未満	6.3 億円 (▲1.9 億円)	44 アレルギー用薬 (3.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.6 億円)	61 抗生物質製剤 (0.5 億円)
5歳以上 15歳未満	21.0 億円 (▲2.4 億円)	44 アレルギー用薬 (15.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.4 億円)
15歳以上 65歳未満	287 億円 (+11 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	44 アレルギー用薬 (58 億円)	11 中枢神経系用薬 (53 億円)
65歳以上 75歳未満	195 億円 (+20 億円)	21 循環器官用薬 (73 億円)	23 消化器官用薬 (23 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)
75歳以上	319 億円 (+43 億円)	21 循環器官用薬 (96 億円)	11 中枢神経系用薬 (56 億円)	23 消化器官用薬 (46 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,562 円	2,009 円(北海道)	1,289 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+22.6%	+27.2 % (徳島県)	+18.9 % (和歌山県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	82.1 %	89.5 % (沖縄県)	78.5 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	21.5 %	25.4 % (鹿児島県)	18.4 % (京都府)
後発医薬品調剤率	77.8 %	83.9 % (沖縄県)	72.7 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.2 %	66.8 % (沖縄県)	55.1 % (東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和3年2月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。